

オクラに発生する病害虫

7月の農作業

■アブラムシ

【特徴】

- 体長は約2.0mmと小さな黒っぽい虫です。
- 作物に飛来して寄生し繁殖します。
- 主に葉の裏に発生し、増殖すると実やつぼみにも寄生します。
- また、新芽の近くに発生すると、葉が奇形し、生育が悪くなります。
- 酷い場合は葉の裏全体が黒く見えるほどになり、下の葉が油で濡れたようになります。

【対策】

- シルバーマルチを使用すると光が反射し発生を抑えられます。

【防除】

適用農薬	希釈倍数	使用時期	総使用回数
スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内



葉や芽に発生したアブラムシ



■葉すす病

【特徴】

- 最初に葉の裏面に黒色の小さな斑点が発生し、被害が拡大してくるとすす状の病斑になり、病斑のある葉の表面は黄色になります。
- 湿度が高いと発生しやすくなります。

【圃場環境】

- 湿度をおさえるため、摘葉して通風の良い環境を作りましょう。

【対策】

- 中期以後の草勢が弱ったところから発生しやすくなるので追肥を行いましょう。

【防除】

適用農薬	希釈倍数	使用時期	総使用回数
ダコニール1000	1,000倍	収穫前日まで	5回以内



葉に病斑が現れたオクラ



株全体がすす状になったオクラ

裏面はダイコンに発生する病害虫を掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.351 令和2年7月15日発行

ダイコンに発生する病害虫

7月の農作業

■ネキリムシ

【特徴】

- 幼虫は主に茎や葉を食害し、特に株の根元をかみ切られるとそこから折れて枯死します。
- 日中に被害株の根元を掘ると、潜んでいる幼虫が見つかります。

【圃場環境】

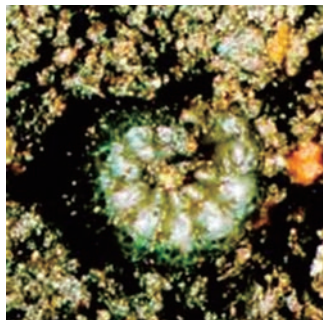
- 周辺に雑草が繁茂しているあぜ際などは、雑草から侵入し被害が出ることもあるので草刈り等雑草の除去に心がけてください。
- 休耕地などはとくに発生が多くなるので、作付け前にあらかじめ耕起を行い、圃場環境を整えてください。

【対策】

- 幼虫を発見したら即処分しましょう。

【防除】

適用農薬	使用量	使用時期	総使用回数
ガードベイトA	3kg/10a	播種時～生育初期	4回以内



ネキリムシ



食害された葉とネキリムシ

■ホウ素欠乏症

【特徴】

- 地上部の生育にはあまり症状は見られないが、ひどい場合は葉がもろくなり、葉の先端から枯れていきます。
- 肥大が悪く、肌ツヤ、形が悪く表皮に亀裂が入り、切断すると中央に沿って黒い筋が入ります。

【圃場環境】

- 土壌の乾燥が続いたり、アルカリ性になるとホウ素の吸収を妨げ発生しやすくなります。
- 播種前に十分耕し、環境の良い土壌を作りましょう。

【対策】

- マルチを使用することで乾燥の防止になります。
- 土づくりを行う時にセルカ等を施用することで土壌の酸を整え、BMようりん、ホウ砂等の施肥（10aあたり0.5～1kg）によりホウ素の吸収を促し肌荒れ防止の効果があります。



もろくなったダイコンの葉



病斑が現れたダイコン

裏面はオクラに発生する病害虫を掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.351 令和2年7月15日発行